

## 倉賀野浅間山古墳の重要性にせまる

高崎市教育委員会 文化財保護課

### 1 倉賀野浅間山古墳の概要

古墳の形状：前方後円墳（後円部 標高約98.4m、前方部 標高約90.2m）

古墳の大きさ：墳丘長171.5m 堀を含めた兆域 約300m

推定される埋葬施設の構造：<sup>たてあなけい</sup> 竪穴系の主体部（<sup>ねんどなぐ</sup> 粘土槨、<sup>れきか</sup> 礫槨か）

古墳周囲の構造：<sup>うちほり</sup> 内堀、<sup>ちゆうてい</sup> 中堤、<sup>そとほり</sup> 外堀 中堤には<sup>いさいし</sup> 葺石が築かれる

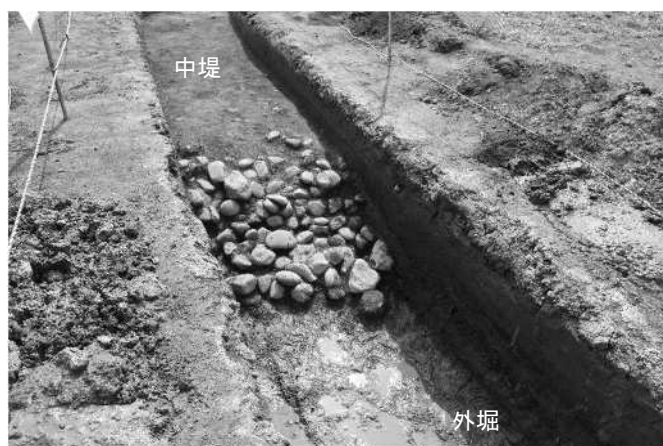
古墳が造られた年代：4世紀終わり頃（今から約1600年前）



南東から



東から

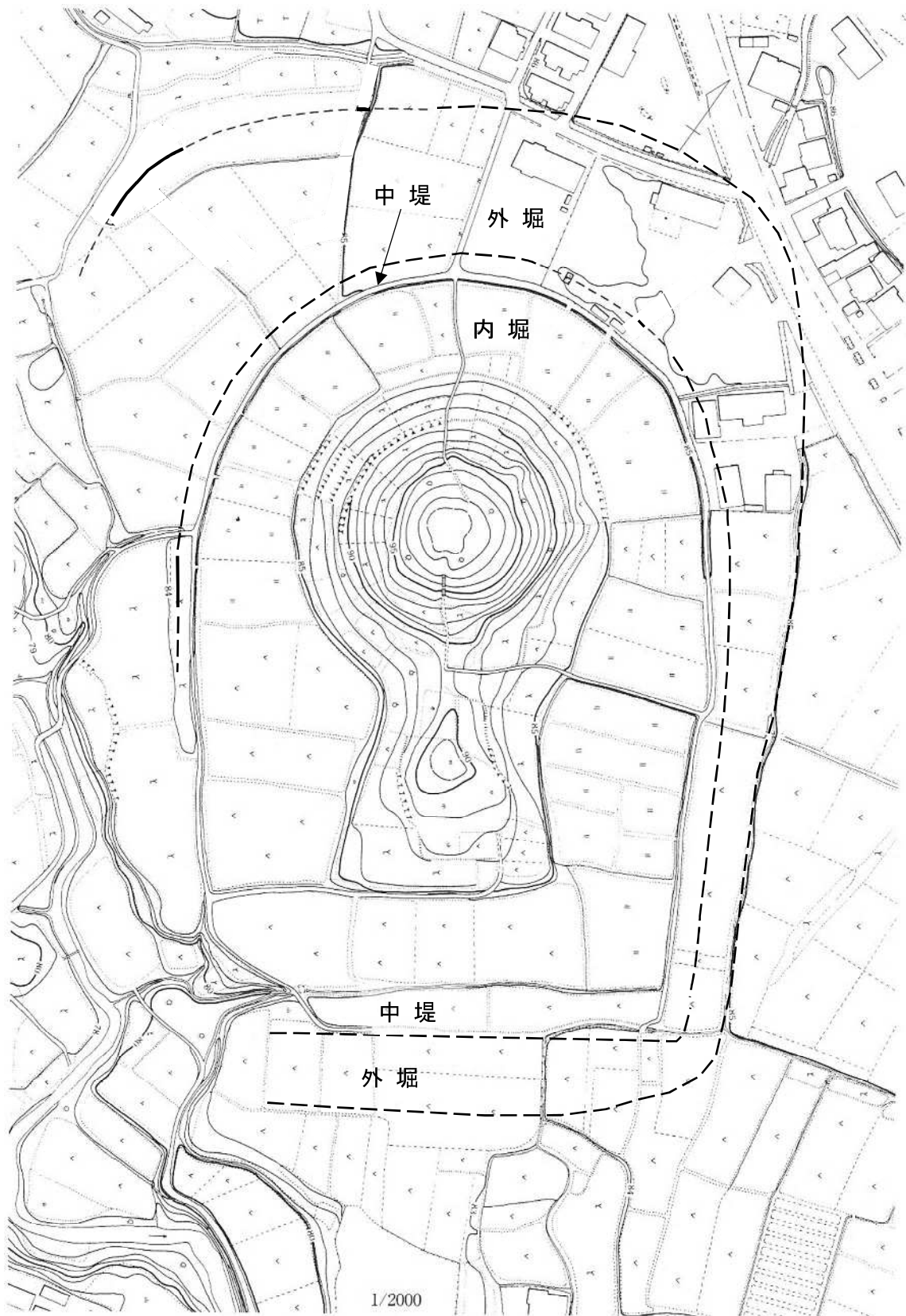


東から



南から

平成30年度発掘調査状況



倉賀野浅間山古墳 墳丘図 (S=1/2000)

## 2 倉賀野浅間山古墳の歴史的意義

### (1) 墳丘長171.5m、大型の前方後円墳

- \* 高崎市倉賀野町に所在。約1600年前の豪族の墓
- \* 前方後円墳という、古墳時代の最上位にランク付けされる墳形を採用
- \* 太田天神山古墳（太田市・210m）・舟塚山古墳（茨城県石岡市・186m）に次ぎ、東日本第3位  
群馬県では第2位、高崎市では第1位

### (2) 古墳時代、4世紀末頃に造られる

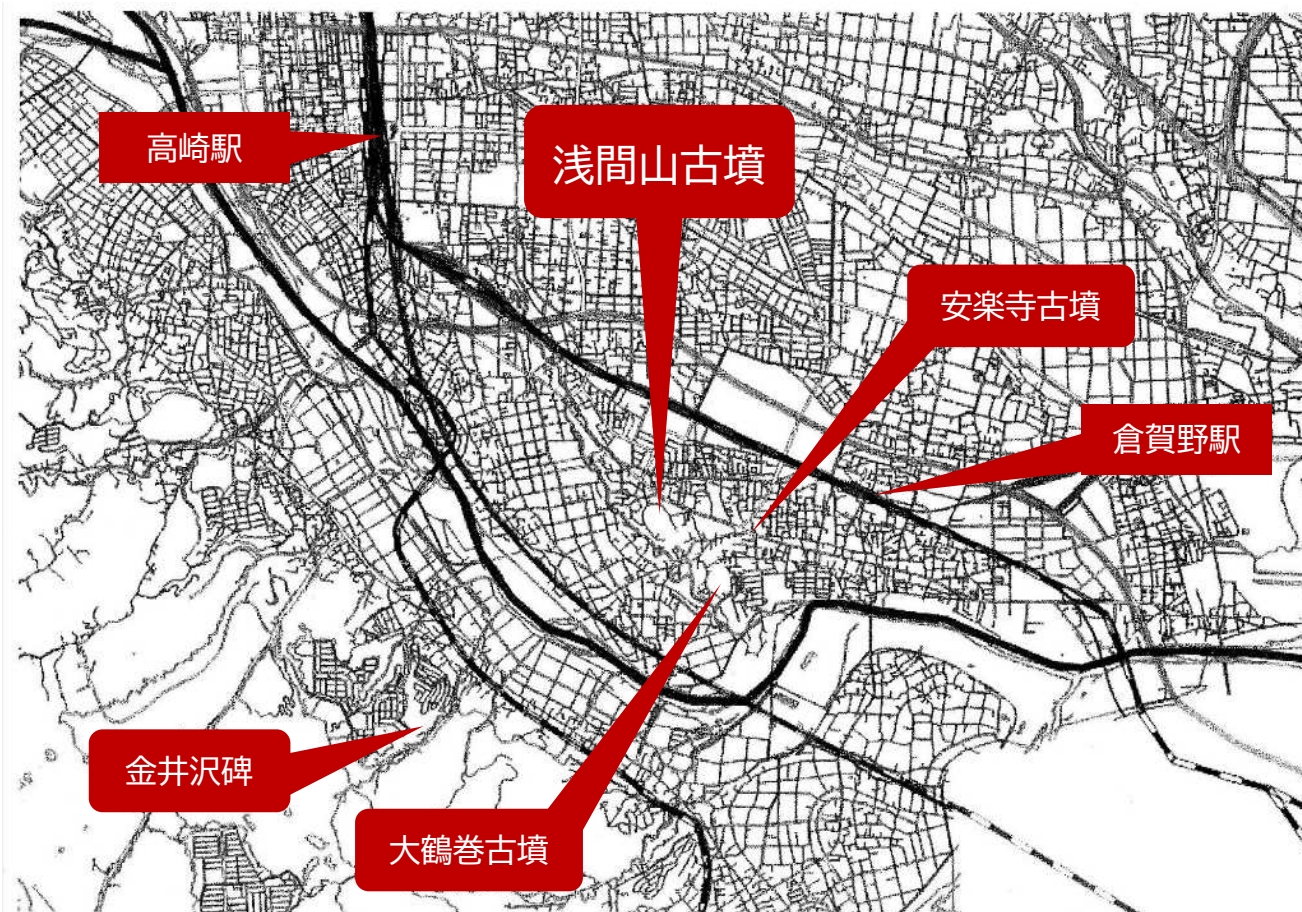
- \* 未調査であるが、出土品などから4世紀末頃の築造とされる
- \* 築造当時は東日本最大クラス。全国屈指の大豪族を埋葬
- \* 広大な「倉賀野」を開発した大豪族と、それを支えた多くの人々が造り出した

### (3) ヤマト王権を支え、国家の形成に貢献

- \* 4世紀末の佐紀陵山古墳（奈良県・209m）と似ている墳丘規格  
ヤマト王権中枢の古墳と密接な関係  
群馬県西部の代表者として、ヤマト王権と同盟を結ぶ
- \* 浅間山古墳が造られた頃のヤマト王権は、地方豪族との連携で成り立つ  
→ 前期ヤマト王権と、地方豪族の力の差は少ない。次第に中央集権化が進んでいく

### ⇒ 浅間山古墳は、古代国家の成立に尽力した人々を映し出す歴史遺産

- ※ 「倉賀野」は、その後も東日本の要所となっていく  
→ ユネスコ「世界の記憶」の山上碑・金井沢碑を建てた人々もこの地域の関係者  
倉賀野城・倉賀野宿など、関東地方の要も「倉賀野」に所在



浅間山古墳とその周辺

時期	主な出来事	群馬の歴史遺産	「倉賀野」の歴史遺産
古墳時代	4世紀	この頃ヤマト王権成立 元島名将軍塚古墳（高崎） 前橋天神山古墳（前橋） 円福寺茶臼山古墳（太田）	◎ 浅間山古墳
	5世紀	対外交流・政策が活発になる ヤマト王権の強大化	大鶴巻古墳 小鶴巻古墳
		6世紀	筑紫磐井の乱 ヤマト王権のさらなる強大化 厩戸皇子（聖徳太子）が活躍 蘇我馬子が死去（石舞台古墳） 乙巳の変（大化の改新）
飛鳥時代	7世紀	前二子古墳（前橋） 七輿山古墳（藤岡） 綿貫観音山古墳（高崎） 八幡観音塚古墳（高崎） 総社愛宕山古墳（前橋） 宝塔山古墳（前橋） 山王廃寺（前橋）	
	8世紀	藤原京に遷都 多胡碑（高崎） 上野国分寺・尼寺（前橋・高崎）	安楽寺古墳・山上碑 金井沢碑
奈良時代	平城京に遷都 東大寺の大仏建立		

日本史における浅間山古墳の位置付け